

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和4年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,310	t-CO <sub>2</sub>
①を （温室 効果 ガス 換算 排出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO <sub>2</sub>
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	④メタン		t-CO <sub>2</sub>
	⑤一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑨三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,310

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度 令和4年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和7年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>	

項目	基準年度 令和4年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和7年度 目標削減率	
	原単位あたりの 排出量	0.0166	t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	0.0161	t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	3.0

(2) 目標設定の考え方

2期工事完工し新型コロナ対応が落ち着きつつある2022年度を基準として、毎年1.0%以上減とした。  
 （省エネ法 定期報告において未達時に理由を求められる年平均1.0%以上削減を目標とした。）

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。  
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。  
 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

指針第1号様式

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
エネルギー使用設備の維持管理	計画に基づく定期点検により不具合の有無を確認し、手入れを実施して、機器の性能を維持させる。 (手入れ：空調室外機 熱交換洗浄 空調フィルター洗浄・交換 ファンベルト交換 太陽光パネル洗浄 冷温水発生器燃焼調整 等)	計画的に実施
良質な学習環境を確保し、空調温度の適切な管理	教室・講堂等の使用予定を把握することにより、使用時間帯のみ空調を稼働させる。 利用者からの申告により室内温度の調整を実施。	継続実施
無駄の排除	教室・講堂等の使用予定を把握することにより、使用時間帯のみLED照明を点灯させる。 巡回により、照明の消し忘れ箇所の消灯	継続実施
廃棄物の排出抑制	(機密文書を除き)印刷時は、両面コピー、裏面使用による紙の使用量の削減 Web会議等で 紙の会議資料削減	継続実施
エネルギー使用設備の維持管理 (見える化)	エネルギー使用実績の共有化 脱炭素推進会議ワーキング 施設責任者会議 委託テナント会社連絡会 キャンパス内に設置されている見える化モニターへエネルギー使用量・太陽光発電量表示	月1回実施 エネルギー使用実績の共有

指針第1号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
2013年度	太陽光発電	30kW + 18kW(2019年度) 2022年度実績約70千 kWh
2013年度	トップライト	自然光を取り入れ照明の使用を抑える
2013年度	地中熱利用ヒートポンプエアコン	プレート式熱交換器89.3kW
2013年度	クールアンドヒートピット	外気を地下ピットに取り込み予冷・予熱した空気を空調に使用

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

新規計画なし
--------

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

新規計画なし
--------

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 熱利用ヒートポンプで使用した井水を雨水と合わせて雑用水として利用</li><li>・ 超節水型トイレの採用</li><li>・ 雨水貯留槽の設置</li></ul>
--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 空調機器フィルター交換（清掃）時期を定めることで機能維持に務める。</li><li>・ 太陽光発電設備の外観点検を毎月実施して機能維持に努める。</li></ul>
--